## TOPICS

### クラウドサービスのメジャー バージョンアップ







クラウドサービス「CloudSharedOffice」 のユーザーインターフェイスの全面リ ニューアル及び機能拡張を契機に、サー ビス名称をコンテンツ管理サービス [Fleekdrive (フリークドライブ)] に、 クラウド帳票サービス「Fleekform(フ リークフォーム)」に変更しました。また、 過去2年にわたり「ベスト海外展開賞」を 受賞しているASPIC 主催の「第11回 ASPIC IoT・クラウドアワード2017」に

Fleekform





## 次世代車載システム分野の開発 で豊田通商㈱と資本業務提携

自動運転や、コネクテッドカー(インター ネット通信技術を搭載した車)、ADAS (先 進運転支援システム) など、高度化する 車載情報システムを支える次世代車載シ ステム分野に於いて、大きなシナジーが 期待できることから豊田通商㈱と資本業 務提携しました。本提携は既にトヨタグ ループと取引関係がある㈱エクスモー ション以外の当社グループ会社との取引 拡大も視野に入れており、具体的には㈱ イー・アイ・ソルが得意とする組込・制御・ 計測分野の知見を活かした案件の取り込 みが進んでいます。

豊田通商㈱と豊田通商グループのエレク トロニクス商社である㈱ネクスティ エ レクトロニクスは、車載向け組込ソフト ウェア開発力の強化を目的に、ソフトウェ ア開発会社3社(㈱アックス、インテグレー ションテクノロジー㈱、㈱未来技術研究 所)と資本業務提携しました。当社を含 むこのソフトウエア開発会社4社は、㈱ ネクスティ エレクトロニクスの中核と なるコアパートナー会社に位置付けられ

### FinTech分野でSBIホールディ ングス㈱に技術協力開始

SBIグループが進めるFinTech分野のシス テム構築に向けて、技術協力を開始しま した。

具体的には、SBI Ripple Asia ㈱とSBI FinTech Incubation ㈱が手掛ける地方 銀行等向けのブロックチェーン・分散台 帳技術を用いた国内外送金システムの開 発支援を当社グループ会社が、また、SBI バーチャル・カレンシーズ㈱が計画して いるブロックチェーン・分散台帳技術を 用いた仮想通貨の取引所運営事業に関す るシステム構築を当社が支援を開始しま した。SBIグループの他の金融系グループ 会社においてもFinTechの導入に伴う案 件の需要が期待できます。

### FinTech案件に向けた新しい取組み

FinTech関連の案件に向けた取組みとし て、国内におけるブロックチェーンの普 及啓発、研究開発推進、関連投資の促進 及び海外ブロックチェーン団体との連携 などを目的に設立された「一般社団法人 ブロックチェーン推進協会| に入会しま した。本協会での活動を通じて、ブロッ クチェーンにおける先取的な情報収集と 技術力向上を目指します。加えて、新規 案件の獲得に伴う人材不足対策を目的に、 ニアショア開発拠点として北海道の開発 会社であるニューイング・ソフト㈱と資 本業務提携を締結しました。同社は、北 海道のブロックチェーン技術のブラン ディング確立を目指す「ブロックチェー ン 北海道イノベーションプログラム」の 「テクニカルパートナー」であり、北海道 におけるブロックチェーン技術者の育成・

ビジネス活用 の検討を行う など、当社が 必要とする FinTech分野 に精通した人 材の確保が期 待できます。



## 自動運転向けOS「Autoware」を開発支援し、 AI技術を保有する㈱アックスに資本参加

UNIXやネットワークを得意とする㈱アッ クスの株式を14%取得しました。組込機 器用のOSや基本ソフトの開発実績を背景 に、最近では自動運転関連の技術開発を 手掛け、自動運転用基本OSである 「Autoware」の開発サポートやコンサル ティング、自動運転等に必要不可欠とな るAI技術の開発などの成果を挙げていま す。当社グループ会社の㈱エクスモーショ ンや㈱イー・アイ・ソルが自動運転関連 の開発支援を行っており、シナジーを見 込んでいます。

### 中央職業能力開発協会(JAVADA) 「若年技能者人材育成支援等事業」落札

中央職業能力開発協会が取り組む「平成 29年度『若年技能者人材育成支援等事業』 における IT マスタープログラミング教材 (小学生向け) に係るロボットレンタル業 務等一式」について、一般競争入札を経 て落札し、ロボット事業に参画しました。



画像引用元:「厚生労働省ITマスターご案 内パンフレット」より

### IRニュースをメールでお知らせします

決算情報などのニュースをタイムリーに メールでお届けします。配信登録におけ る個人情報の入力はメールアドレスのみ

### http://www.solxyz.co.jp/



## 株主メモ

期 12月31日 定時株主総会

進 Н : 12月31日

配当金受領株主確定日:6月30日及び12月31日 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。

1単元の株式の数 100株

株主名簿管理人 〒183-0044 東京都府中市日鋼町1-1

三菱UFJ信託銀行株式会社

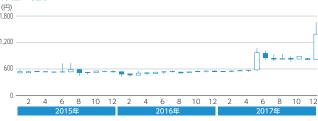
郵便物ご送付 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UF J 信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問合わせ先 TEL. 0120-232-711(フリーダイヤル)

公 告 方 法 電子公告により、ホームページ

(http://www.solxyz.co.jp)に掲載します。

### 株価の推移



#### 株主優待

次の基準により国内産コシヒカリを贈呈しています

200株以上の株主様 5kg 1,000株以上の株主様 10,000株以上の株主様 10kg

(2017年12月末基準の200株以上の株主様に対する実績)



## 会社情報

(2017年12月31日現在)

名 株式会社ソルクシーズ(東証一部 証券コード:4284)

設 立 1981年2月4日 資 本 金 14億9,450万円

事業内容 SI/受託開発業務(システムコンサルティング、システムの設計・開 発・運用・保守)、ソリューション業務(セキュリティコンサルティング、

〒108-0014 東京都港区芝五丁目33番7号

TEL, 03-6722-5011(代表) FAX, 03-6722-5021

パッケージシステムの開発・販売・保守)及び関連機器の販売等

〒812-0038 福岡県福岡市博多区祇園町四丁目2番 TEL. 092-283-8411 FAX. 092-283-8412

**従業員数** 491名(グループ計710名) システムエンジニア436名、営業スタッフ13名、その他42名

U R L http://www.solxyz.co.jp

子 会 社 株式会社エフ・エフ・ソル、株式会社イー・アイ・ソル、 株式会社インフィニットコンサルティング、株式会社ノイマン、

株式会社teco、株式会社エクスモーション、株式会社コアネクスト、 株式会社アスウェア、株式会社インターディメンションズ、 アセアン・ドライビングスクール・ネットワーク合同会社





# 第38期 ソルクシーズ株主通信

2017年1月1日~2017年12月31日

私たちはお客様の夢を実現する ソリューション・カンパニーを目指しています。

お客様の業務改革を支えるのは、大胆で独創的な発想力、そして、迅速な対応力。

Change, Challenge & Speed



# 2018年は"進化"の年

一新たな種を蒔く年一 布石を積み重ね、 ソルクシーズグループの 永続的な繁栄を築く。

前期(2017年12月期)の総括と、 今期(2018年12月期)の見通し 及び今後の戦略について、 代表取締役社長の長尾章より ご説明いたします。



A 昨年は、世界各地におけるテロの発生や北朝鮮の核・ミサイル問題など、不安材料は多かったものの、世界経済全体の回復基調に乗って、我が国経済も緩やかな回復を続けました。

国内IT投資は、金融関連を中心とした開発需要が引き続き 堅調に推移しましたが、一方でIT業界全体の人材不足も深 刻化の度合いを深めました。

この様な環境下、当社は新しい成長分野を中心に将来に向けた事業基盤の強化を図るべく、①豊田通商㈱と資本業務

提携契約を締結し、豊田通商グループのコアパートナーに就任、②SBIホールディングス㈱との技術協力の合意を背景に、ブロックチェーン\*1活用や仮想通貨\*2取引所などSBIグループ各社が推進するFinTech事業への開発支援を開始、③㈱アックスへの資本参加等により、自動運転やAI(人工知能)等の分野におけるビジネス拡大のための体制を強化するなどの諸施策を実施し、大きな成果を上げる事が出来ました。

## Q SIビジネスの状況について

A 主力事業であるソフトウェア開発事業においては、長期・優良な案件の確保に努めるとともに、クラウド開発力の強化として、自社開発したクラウドサービスのノウハウを活かしたクラウド型システム開発に特化した部門を新規設置、また、ニューイング・ソフト(株)との資本業務提携契約の締結など受託開発における優良な開発リソースの確保にも注力した結果、クレジットなどの金融向けを中心に順調な伸びを見ることが出来ましたが、一部に不採算プロジェクトが発生するなど課題も残る結果となりました。

# Q ストック型ビジネスの状況について

A 経営戦略の一つであるストック型ビジネスについては、① クラウドサービスの名称を「Fleekdrive」・「Fleekform」に改め、新サービス「Fleekform給与」をリリース、②㈱イー・アイ・ソルにおいて、IoT分野の新製品として「EIーThermo」を開発・販売、③IoT分野における見守りサービス「いまイルモ」とNECプラットフォームズ(㈱のロボット「PaPeRo i」を組み合わせた新しい見守り支援サービス「いまイルモPaPeRo i」の開発・販売、④中央職業能力開発協会(JAVADA)が取り組む「若年技能者人材育成支援等事業」を落札し、ロボット事業に参画するなど、提供ソリューションを拡大し、同ビジネスの強化を更に進める事が出来ました。

### 中期計画の連結売上高・利益目標

2020年度 2019年度 2017年度 2018年度 (計画) 売上高 14.001 13.600 14.000 14.500 (経営利益率) (4.9%)(4.5%)(7.6%)経営利益 683 610 1.000 1,100 当期純利益 411 390 600 650





## Q グループ会社の状況について

A グループ会社においては、各社が持つ高い技術力、ユニークなサービスを活かし、設立来最高益を達成、更新した会社が複数社あるなど、全体を通して好調な一年となりました。㈱イー・アイ・ソルにおいては、山岳トンネル工事の安全管理と省エネルギー化を連動させるエネルギーマネジメントシステム「TUNNEL EYE」における環境制御システムについて特許を取得し、更に国内初の伸縮ダクトを含めた全自動最適化システムにバージョンアップすることが出来ました。

## Q 今後の成長戦略について

A 当社は、SIビジネスとストック型ビジネスの両輪でお客様のビジネスを支援しています。SIビジネスではシステム企画、設計、開発、運用からインフラ構築まで、お客様のシステム構築・運用をワンストップでご支援可能な体制を当社グループ全体で構築しています。更にストック型ビジネスとして、クラウドを始めとする各種サービス・ソリューションを提供し、お客様の様々なご要望に直接お応え出来るサービス体制を整えています。

今後も、これら既存のビジネスに加え、当社グループ全体で取り組んでいる「FinTech」、「AI」、「IoT」、「自動運転」などの新しい分野において積極的にビジネスを推進しています。グループの総力を挙げて企業価値向上に努めて参ります。

## Q 株主の皆様へ

A 株主の皆様への利益還元を経営の重要課題の一つと認識しておりますが、安定的な経営基盤の構築にも努め、両者のバランスの取れた経営を目指しております。このような方針に基づき、今期の配当金につきましては、配当性向、業績等を総合的に勘案し、1株当たり期末配当金を8円とすることとしました。

2018年は新たな種を蒔く「進化」の年と定めました。数年前に立ち上げた各グループ会社も、今日では独り立ちできる程度に育った会社もあります。新たな種を蒔き、布石を積み重ねることにより、ソルクシーズグループの永続的な繁栄を築いて参ります。株主の皆様には、引き続き倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

- ※1 分散型台帳技術、または分散型ネットワークのこと。「ブロック」と呼ばれるデータの単位を一定時間ごとに生成し、鎖(チェーン)のように連結していくことによりデータを保管するデータベースであり、記録を共有し、検証し合うので、記録改ざんや不正取引が防げる。金融以外の分野への応用が進んでいる。
- ※2 分散型台帳技術、または分散型ネットワークのこと。規制されていないデジタル通貨の一種で、開発者によって発行され、通常は管理され、特定の仮想コミュニティのメンバー間で使用され、受け入れられているものを指す。

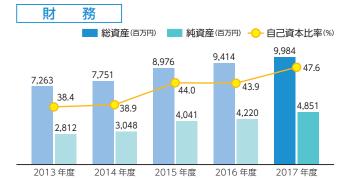
### 財務データ



### 当期連結収益面のPOINT

金融向けSI開発案件の増収、及びグループ子会社においては自動運転 関連を含む製造業向けシステム開発支援、組込系ソフトウェア開発な どが好調、また複数社が設立来最高益を達成、更新した会社があるな ど、全体を通して好調な一年となりました。

その結果、売上高は**前期比5.4%** ↑ の14,001百万円となり、親会社株主に帰属する当期純利益は同13.0% ↑ の411百万円となりました。



### 当期連結財務状態のPOINT

当期未総資産は、業績拡大に伴い現預金・売掛金が増加し、流動資産が594百万円 ↑、固定資産においては、のれん償却・ソフトウェアの減少により23百万円 ↓となり、結果として前期末比6.1% ↑の9,984百万円、当期未純資産は同15.0% ↑の4,851百万円となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要旨)	2015年度	2016年度	2017年度
営業活動によるキャッシュ・フロー	652,453	441,354	△ 49,656
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 809,503	△ 354,821	△ 10,548
財務活動によるキャッシュ・フロー	763,240	△ 177,164	△ 109,489
現金及び現金同等物の期末残高	2,676,078	2,585,447	2,415,752